

事務局だより

Trajectory 第2巻では、AXIES の初代会長を務めていただいた安浦寛人先生と現在の会長の青木孝文先生の対談を収録させていただきました。収録は東京の一ツ橋にある国立情報学研究所の安浦先生のお部屋に青木先生に来ていただいて行いました。事務局からは喜多と仲田さんが同席しました。

安浦先生は京大の情報工学科から、1986年に電気系学科の助教授として移ってこられ、その後、1991年に九州大学に教授として異動されています。当時、情報工学科内では LAN が整備されていたそうですが、電気系学科の中でも LAN を整備しようという動きがありました。

対談に先立って、安浦先生とこれに関連して少し思い出話をさせていただきました。

1987年から京大の電気系で助手をしていた喜多はある日、安浦先生に呼び出されて、「30万円、研究室で用意してください。」と言われました。「何に使うのですか」と尋ねたら、「30万円あれば、パソコンPC98 用のイーサネットのボードが買える」とのこと。「それで何ができるのですか」とさらに尋ねたら「メールを読み書きできます」と言われて驚いたこと。このことが、私が大学の情報基盤に関わったり、AXIES のお手伝いをするようになったきっかけなんですよ、と申し上げたかったのです。

対談は iPad で録音し、Word の文字起こし機能を使ってテキストにしました。数年前ならこれ自体を外注したり、長い時間をかけて人出で行ったりする作業です。文字起こしについては話者まで識別してくれました。対談後、生成 AI でまとめては？と青木先生には言われたのですが、ずいぶん長く話して頂いたのを手作業で適当な長さに編集してお二人に確認していただきました。1980 年代後半からの技術進歩の凄まじさを痛感させられますが、対談では安浦、青木両先生に、さらに未来に向けてのお話をさせていただきました。

対談の中で安浦先生が100年後の歴史学、ということを提唱されていますが、AXIES についても、そろそろこれまでのことを文書にとどめていかなければいけない時期になりました。

第1巻では梶田先生に創設前の取り組みを書いていただきましたが、第2巻では、これに続く形で藤村先生に創設時に取り組まれたことをまとめていただきました。安浦先生、青木先生の対談と併せてお読みいただけたらと思います。

(AXIES 事務局長代行 喜多)



2024年11月1日、国立情報学研究所、安浦先生のお部屋にて。
左から、喜多、安浦前会長、青木会長、仲田



事務局が入室しているシェアオフィス Whatever SHIMOGAMO 前にて。
2024年6月21日、青木会長 京都の事務局へ来局

青木会長は東北大学の理事・副学長・プロボストを務められていて大変ご多忙なのですが、6月に関西へのご出張の際に事務局にもお立ち寄りくださいました。事務局について、青木会長から以下のコメントをいただきました。

「事務局が入っている Whatever SHIMOGAMO は、なかなかおしゃれで落ち着いたところです。地図で見ていただくと面白いんですが、「賀茂川」と「高野川」が合流して「鴨川」になるY字型の合流点にあるんですよ。京都は隠れ家的な場所がたくさんあってうらやましいですね〜。」

(AXIES 事務局 仲田)